

いなべ市教育振興ビジョン

いなべ市教育委員会

第1章 基本的事項

1 策定の趣旨

いなべ市が策定する総合計画（平成28年度～平成37年度）の第2期基本計画（令和3年度～令和7年度）に沿って、今後の本市の教育施策の方向性を示す新しい指針として、いなべ市教育振興ビジョンを策定します。

2 位置づけ

教育基本法第17条第2項に基づいて策定する、いなべ市における教育振興の施策に関する基本的な計画

3 計画期間

5年間（令和3年度～令和7年度）

4 対象範囲

- (1) いなべ市内の公立学校教育、社会教育、スポーツに関すること
- (2) 上記(1)と密接な関係を有し、いなべ市教育委員会が、多様な主体との協働・連携のもとに、推進を働きかけることのできる分野

5 ビジョンとしての性格

- (1) 中期的視点からいなべ市の教育施策の方向性を示します。
- (2) いなべ市総合計画と一体となった施策展開を図ります。
- (3) いなべ市の学校・家庭・地域が一体となり、社会全体で教育に取り組むための拠り所とします。

6 進捗状況の点検と見直し

- (1) 計画の実施過程においては、PDCAサイクルの考え方に基づいて、各年度に重点的に取り組んだ事業についてまとめた「いなべ市教育要覧」を作成し、これを公表し、計画の着実な実施に努めます。
- (2) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとなっています。この「教育委員会の点検及び評価報告書」を市ホームページに掲載することにより、計画の進捗状況を、市民に報告していきます。
- (3) 「教育委員会の点検及び評価報告書」の結果を、次年度の施策の見直しや改善等に生かすよう努めます。

第2章 基本理念

1 「豊かな心・確かな学力・健やかな体」の育成

「一人ひとりを大切にする教育の推進」「人権教育内容の充実」「確かな学力の向上」「小中一貫教育の推進」「健やかな体の育成」

2 創意と活気に満ちた特色ある学校づくりの推進

「地域に開かれた学校づくりの推進」「学校環境整備の充実」

3 教職員の資質の向上

「教育相談・支援体制の充実」

4 青少年の夢を育む地域づくりの推進

「青少年健全育成の推進」

5 生涯学習の充実

「学びの機会の充実」「生涯学習施設の充実」「図書館の利便性向上」

6 文化芸術活動の充実

「文化財の保存活用支援」

7 総合的なスポーツの推進

「生涯スポーツの充実」「スポーツ施設運営の充実」「スポーツ団体の育成支援」

8 自然環境の保全・充実

「自然環境の保全」「自然学習施設の充実」

第3章 各論

1 「豊かな心・確かな学力・健やかな体」の育成

【現状と課題】

目の前の子どもの姿を出発点とし、「一人ひとりを大切にした授業づくり・集団づくり」と「地域に根ざした教育活動」に、学校と地域が一体となって取り組みを重ねてきました。本市の子どもたちが高い自己肯定感を持ち、学校生活に満足感を持つことができるよう、今後も継続した取り組みが必要です。

近年では、コミュニケーション能力の低下や、それに基づく人間関係の希薄化、個の確立ができていくなどの課題がみられます。

「生き抜く・生き合う・生き拓く」の3つの力を育み、義務教育9年間の学びと育ちをつなぐ教育を推進するため、小中一貫教育による新たな学校づくりを進めています。その際、地域が子育て支援に継続して取り組めるような工夫が必要です。

【基本方針】

- ・小中一貫教育を展開し、質の高い教育を実現することで、「生き抜く力（智）・生き合う力（絆）・生き拓く力（志）」が生まれ、子どもたちの幸せを保証します。
- ・一人ひとりの状況を的確に把握し、その子にあった支援を行うことで、全ての子どもが安心して学べる学級、学校づくりを実現します。
- ・心を耕す教育を進めるとともに、人権尊重の意識と実践力を養うことで、人権文化を構築する子どもたちを育みます。

【施策：一人ひとりを大切にする教育の推進】

- ・小中学校における一人ひとりを大切にする教育の充実を図るために、支援が必要な子どもへの支援、教師の専門性の育成、外部（一人ひとりを大切にする教育の推進機関）との連携等を推進します。また、小中学校における特別支援教育等の充実を図ります。

【指 標】

指標名	教育委員会主催の特別支援・不登校対策の研修会参加者数			
指標値	現状 (R1)	1,090人	目標 (R7)	1,700人

指標名	県スクールソーシャルワーカーや関係機関との連携件数			
指標値	現状 (R1)	31件	目標 (R7)	50件

【施策：人権教育内容の充実】

- ・子どもたちの育ちを人権の視点で捉え、中学校区において保小中の連携を進めるための研修会を実施します。また、東員町とも連携を図り員弁地区人権フォーラムを開催し、小学校・中学校の

児童生徒による、各校の取組や交流、話し合いを通じて、いじめ等の人権問題についての感性を養います。

【指 標】

指標名	人権研修会の参加率（各年）（研修参加教員数/総教員数）			
指標値	現状 (R1)	100%	目標 (R7)	100%

【施策：確かな学力の向上】

- ・ 少人数教育や特別支援教育等を充実させるために非常勤講師を配置し、児童生徒の「生き抜く力（豊かな心、確かな学力、健やかな体）」を育成します。
- ・ 学級満足度調査（QU）を実施し、いじめや不登校の未然防止や、学習意欲の向上、居心地のよい学級集団づくりに活かします。

【指 標】

指標名	学級満足度調査（QU）において、満足群に位置する児童・生徒の割合が60%を超えた学校の割合（小学校）			
指標値	現状 (R1)	67%	目標 (R7)	63%
指標名	学級満足度調査（QU）において、満足群に位置する児童・生徒の割合が60%を超えた学校の割合（中学校）			
指標値	現状 (R1)	72%	目標 (R7)	72%

【施策：小中一貫教育の推進】

- ・ 各校の地域的な特色を活かしたテーマ（環境、食育、国際理解、福祉など）による学習活動の充実を図ります。
- ・ ゲストティーチャー等を活用することで地域との交流促進を図ります。
- ・ 体験活動、アクティブラーニングによる教育内容の深化を図ります。

【指 標】

指標名	全国学力状況調査において「将来の夢や目標を持っています」と答えている中学3年生の割合			
指標値	現状 (12)	73.0%	目標 (R7)	83.0%

指標名	小中一貫教育研究発表会参加者数			
指標値	現状 (R1)	286人	目標 (R7)	190人

【施策：健やかな体の育成】

- ・耳鼻科、眼科、歯科、内科、尿、心電図、ぎょう虫卵検査を実施します。
- ・中学校の生徒に部活動への意欲・関心を高め、体力・技術・精神力の向上を図ります。

【指 標】

指標名	学校における検診受診率（検診受診児童数/総児童数）			
指標値	現状 (R1)	100%	目標 (R7)	100%

2 創意と活気に満ちた特色ある学校づくりの推進**【現状と課題】**

地域の実情に応じて、環境や福祉の教育、米づくりや栽培など様々な体験活動を通して、各校が特色ある学校づくりを展開するとともに、家庭や地域との連携、協働関係を強化しながらコミュニティ・スクールの指定や学援隊、学び舎事業の推進等を通じて、地域とともに歩む学校づくりを進めており、今後も継続した取り組みが必要です。

ICT機器の整備による情報教育の推進や国際化の進展、社会の変化等に柔軟に対応できる能力を育成する教育を推進しています。

家庭、地域及び行政、関係機関等、社会全体で学校を支援する体制を整えながら、創意と活気に満ちた特色ある学校づくりを行っていくことが重要です。

義務教育の9年間を見通した小中一貫教育を小学校再編とともに進めてきました。また、小中一貫教育の実施にあたっては、保護者、地域、学校の連携がより深まるよう工夫することが重要です。

学校施設の耐震補強は完了していますが、老朽化した施設があるため、改築や改修が必要です。

大安学校給食センター及び藤原学校給食センターから小学校11校と中学校4校に給食を供給していますが、北勢町内の4小学校は自校式給食となっています。子どもたちの心身の健康と正しい食習慣の定着につながる、安全・安心な学校給食の提供が必要です。

【基本方針】

- ・PTAや地域、関係機関との連携によって学校への協力支援体制が確立され、子どもたちが安心して学べる教育環境の整備を進めます。

- ・コミュニティ・スクールや学援隊の充実により、創意と活気に満ちた特色ある学校づくりを推進します。
- ・各小中学校の生徒数や学級数等の規模が適正化であり、義務教育9年間を見通した連続性、一貫性のある小中一貫教育を展開します。
- ・児童生徒が安心安全で快適に過ごせる学校環境を確保します。

【施策：地域に開かれた学校づくりの推進】

未来いなべ科、学援隊事業、コミュニティ・スクールの各事業を密接に関連づけ、それぞれの事業での地域との交流及び支援の機会を増やすとともに、支援内容の広がりを図り、特色ある学校づくりを推進します。

【指 標】

指標名	各校に登録する学援隊員数			
指標値	現状 (R1)	1,023人	目標 (R7)	1,500人

【施策：学校環境整備の充実】

- ・複式学級を解消し、適正な学級・学校規模を維持します。
- ・学校安全管理及び児童生徒の防犯、防災対策のための物品を配布します。
- ・安全で安心な学校給食を安定的に提供する体制を維持します。
- ・学校施設を適正に維持管理し、児童生徒が安心して過ごせる環境を確保します。
- ・老朽化した学校施設の改築・改修を進め、児童生徒の安全を確保します。

【指 標】

指標名	建築後30年以上経過しているが改築・改修を行っていない施設を有する学校数			
指標値	現状 (R1)	4校	目標 (R7)	2校

3 教職員の資質の向上

【現状と課題】

本市では、確かな学力の獲得と豊かな人間性の育成のためには、安心して学べる学習環境がその基盤にあると考え、学級、学校の集団づくりに力を入れており、その実現のために、全教職員が共通理解のもと、一つのチーム（学校力）として取り組みを進めることが大切です。

教育研究所の活動を推進し、研修、研究機能を高めるとともに、研修体制を構築する必要があります。

教職員の研究組織を見直し、市として機能する教育研究組織の再編を行い、質の高い教育実践を行う必要があります。

【基本方針】

- ・市の教育水準を向上が図られるとともに、教育研究所における調査、研究により、今日的な課題や市独自の教育課題の解決につなげます。
- ・教職員の専門的知識、技能が高まり、資質及び指導力の向上を図ります。

【施策：教育相談・支援体制の充実】

研究指定校による研究の推進及び教育研究所の教職員研修の充実により、今日的な教育課題やいなべ市独自の教育課題の調査、研究を進めるとともに、教職員一人ひとりの資質、指導力の向上を図ります。

【指 標】

指標名	教育研究所研修講座等参加者数			
指標値	現状 (R1)	1,074人	目標 (R7)	1,350人

4 青少年の夢を育む地域づくりの推進**【現状と課題】**

- ・近年では、集団遊びや仲間との活動経験が乏しい子どもの増加や地域のつながりの希薄化により、青少年を取り巻く環境の悪化が懸念されています。
- ・インターネットやスマートフォン等の情報取得手段の多様化により、問題行動の低年齢化や青少年の規範意識の低下が課題となっています。
- ・両親の共働きなどにより、子どもの居場所づくりの必要性が増加しています。

【基本方針】

- ・家庭、学校、地域、関係機関等の連携により地域の青少年の育成能力を向上させます。
- ・地域の教育力を活かした子どもの居場所づくりを進めるとともに学校などの教育機関との連携により、休日や長期休暇などを利用した感性豊かな子どもの育成を支援します。

【施策：青少年健全育成の推進】

- ・地域や家庭、関係機関と連携を図り、地域力を活かした青少年の育成に取り組みます。
- ・子どもの居場所を確保し、子どもの社会性や協調性、自立性を育み活動機会の創出を図ります。

【指 標】

指標名	青少年育成市民会議諸事業への市民参加者数			
指標値	現状 (R1)	4,069人	目標 (R7)	4,200人

指標名	放課後子ども教室への参加者数			
指標値	現状 (R1)	10,538人	目標 (R7)	11,000人

5 生涯学習の充実**【現状と課題】**

価値観の多様化の進展等により、自らが学習し、教養を深めることのできる多様な環境づくりが求められています。また、市民の学習ニーズに応え、より一層幅広い世代が参加できるように取り組む必要があります。

インターネットの進展にともない、読書習慣の減少や活字離れが進む中、読書活動の重要性が指摘されています。

旧町ごとに設置されている生涯学習施設等について、適正な維持管理を行っています。

【基本方針】

- ・市民の需要に応じた生涯学習講座が開催され、幅広い世代における市民の学習、教養及び技能習得の機会を効率的に提供します。
- ・施設及び付属施設等の維持管理並びに施設貸出業務を適切に行い、安全で快適な利用を図ります。

【施策：学びの機会の充実】

- ・体系的で効果的な学習機会の提供と拡充を行い、幅広い世代における生涯学習を通じた人づくりを推進します。
- ・小学校の児童を対象とした「屋根のない学校」を開催し、子どもたちが自然と触れ合うことにより、ふるさといなべの自然のすばらしさ、大切さを感じられるようにします。

【指 標】

指標名	生涯学習講座参加者数			
指標値	現状 (H29-R1 平均値)	603人	目標 (R7)	700人

指標名	「屋根のない学校」受講者数			
指標値	現状 (R1)	778人	目標 (R7)	850人

【施策：生涯学習施設の充実】

生涯学習施設予約管理システム等の情報ネットワークシステムを適切に運用し、利便性の向上により、生涯学習環境の充実を図ります。

【指 標】

指標名	年間施設利用件数			
指標値	現状 (R1)	5,279人	目標 (R7)	5,300人

【施策：図書館の利便性向上】

市内図書館の図書資料情報を一元管理して連携を強化するとともに、読書活動の推進と、図書館の利便性向上を図ります。

【指 標】

指標名	インターネットを利用した図書館書籍予約件数			
指標値	現状 (R1)	3,910人	目標 (R7)	4,300人

指標名	図書館の貸出利用登録者数			
指標値	現状 (R1)	18,729人	目標 (R7)	19,400人

6 文化芸術活動の充実

【現状と課題】

文化や芸術に触れる機会と、自ら活動を行うための情報交換の場や連携の機会が求められています。

市内の文化財や天然記念物等について、環境の変化による滅失や個体の減少が懸念されています。

【基本方針】

- ・市民と行政が連携し、文化の高揚とふるさと意識を醸成することにより、多彩で個性ある文化環境を創造します。

- ・市民、行政、専門家が互いに交流して、天然記念物をはじめとする文化財の適切な保存と活用を行い、文化財への理解と愛着を深めるとともに、次の世代につなげる永続的な保護活動を進めます。

【施策：文化財の保存活用支援】

市民と行政が連携し、文化意識の高揚とふるさと意識の醸成により、多彩で個性ある文化の創造を図ります。

【指 標】

指標名	いなべ市文化協会の会員数			
指標値	現状 (R1)	538人	目標 (R7)	1,100人

指標名	天然記念物ネコギギの飼育施設数			
指標値	現状 (R1)	7施設	目標 (R7)	8施設

7 総合的なスポーツの推進

【現状と課題】

市民の安全な利用のために、老朽化した施設の適正な維持管理業務が必要です。

本市では、参加者は子どもから高齢者まで幅広い世代がスポーツ団体やサークルで活動しており、それぞれのニーズにあったスポーツライフが求められています。

競技スポーツから心身のリフレッシュや仲間づくりまで、スポーツやレクリエーション活動の目的や内容が多様化する中で、市民の自主的なスポーツ活動を支援するとともに、誰もが気軽に継続的なスポーツ活動を行うことができる環境づくりが求められています。

地域における公共スポーツ施設や学校体育施設を拠点に、地域住民が主体的に運営や指導に携わり、多様な技術、技能レベル、多様な趣味、目的をもつ誰もがスポーツに気軽に親しむことができる環境の整備が必要です。

【基本方針】

- ・市民誰もがスポーツを楽しむことができニュースポーツ、軽スポーツや体力づくりを行うための機会や情報交換、連携、協力できる体制を確立します。
- ・アマチュアスポーツ活動を支えるNPOの強化及び自主財源を確保し、市民のスポーツ活動及び競技力向上を支援する体制を確立します。
- ・誰もが利用しやすいスポーツに適した施設の適正な維持、管理に努めます。

【施策：生涯スポーツの充実】

様々な世代が多様なスポーツ活動に参加できるよう、スポーツ、レクリエーション活動の普及・啓発を行います。

【指 標】

指標名	スポーツイベント参加者数			
指標値	現状 (R1)	1,052 人	目標 (R7)	1,200 人

指標名	ニュースポーツ、軽スポーツ講習会年間参加者数			
指標値	現状 (R1)	1,189 人	目標 (R7)	1,450 人

【施策：スポーツ施設運営の充実】

- ・多様なスポーツ活動の需要に応えることができるよう、環境の整備を行います。
- ・市民が安全にスポーツを楽しめるよう、スポーツ施設を適正に維持管理します。

【指 標】

指標名	スポーツ施設年間利用者数			
指標値	現状 (R1)	227,402 人	目標 (R7)	234,000 人

指標名	スポーツ施設年間利用団体登録数			
指標値	現状 (R1)	607 人	目標 (R7)	600 人

【施策：スポーツ団体の育成支援】

- ・指導者の養成とコーディネーターの発掘、養成を行い、スポーツ団体の育成を支援します。

【指 標】

指標名	全国大会出場選手数（累計）			
指標値	現状 (R1)	98人	目標 (R7)	100人

指標名	スポーツ少年団団員登録者数			
指標値	現状 (R1)	666人	目標 (R7)	700人

8 自然環境の保全・充実**【現状と課題】**

藤原文化センター内で、藤原岳を中心とした鈴鹿山系の動植物を展示しています。また、一般市民を対象とする自然教室を開催し、鈴鹿山系を中心に四季折々のいなべの自然を紹介するとともに、毎年、子どもたちの自然科学作品展を実施しています。

ふるさとの森や大井田西部公園などにおいて、多様な植物の植栽や市内に生息する魚類が見られる水槽の設置などを行っています。

自然環境の保全・充実のため、各種取り組みを持続的に行っていくことが必要です。

【基本方針】

- ・市民がふるさとの自然環境を観察できるような環境に整備します。
- ・自然保護や動植物に関する情報を発信し、豊かな自然環境の保全、充実に向けた意識を高めます。
- ・大井田西部地区水環境整備事業（県事業）の施設に適応した植生を整備します。

【施策：自然環境の保全】

ふるさとの森公園の整備や大井田西部公園の適切な管理を行います。また、希少動植物の保全に取り組めます。

【指 標】

指標名	市ホームページ「いなべ市の自然」アクセス数			
指標値	現状 (R1)	11,644人	目標 (R7)	12,500人

【施策：自然学習施設の充実】

市民を対象に「藤原岳自然科学館自然教室」を開催し、鈴鹿山系を中心とするいなべの自然を広く紹介するとともに、自然に触れ合う機会を設け、ふるさへの誇りを喚起します。

【指 標】

指標名	「藤原岳自然科学館自然教室」参加者数			
指標値	現状 (R1)	444 人	目標 (R7)	500 人

指標名	藤原岳自然科学館の来館者数			
指標値	現状 (R1)	9,956 人	目標 (R7)	12,000 人